研究課題　和歌山平野を中心とした地域所在中世史料の調査･研究

研究経費　五〇万円

研究組織

　研究代表者　　　坂本亮太（和歌山県立博物館・主査学芸員）

　所内共同研究者　村井祐樹・高橋敏子

　所外共同研究者　小橋勇介（和歌山市立博物館・学芸員）・砂川佳子（和歌山県立文書館・研究員）

研究の概要

（１）課題の概要

　和歌山県における中世史料は、『和歌山県史』の刊行により、その全貌がほぼ明らかになっている。また、本研究で対象とする和歌山平野域（主に和歌山市）については、『県史』刊行後、『和歌山市史』が刊行され、『県史』未収録の史料群も『市史』により把握されている。ただし、当時においても種々の事情により十全な調査・発掘が行われたものではなく、存在は把握していながらも点数が少ないという理由で採録しなかったものや、原本調査に至らず、史料編纂所架蔵影写本に拠らざるを得なかったものも多数あった。さらに、刊行から既に４０年以上が経過し、その間に新たに発見された史料も少なくない。  
以上の様な状況の中で、本課題で対象とする和歌山平野（主に和歌山市）域では、林家文書（和歌山市立博物館所蔵文書と林峯之進家文書）・玉置作太夫家旧蔵文書など、『県史』『市史』からも漏れた少なからぬ新出文書が確認されており、さらには市立博物館の精力的な研究・展示活動により、和歌山市域外の関係文書も多数発掘されている。そこで、明治・大正期に作成された影写本や、昭和以降に撮影された写真帳等、豊富な複本類を持つ史料編纂所と共同することで、当該地域所在史料の調査・研究を行いたい。

（２）研究の成果

　以下、調査・撮影を行った史料を挙げる。  
　　林文書（ＡＢ２種　市博所蔵・寄託）  
　　歓喜寺文書（市博寄託）  
　　向井文書（同上）  
　　鷺森別院文書（同上）  
　　末永雅雄コレクション（大阪狭山市教育委員会寄託）  
以上の内、林文書Ｂは、これまで行方不明とされていた一群であり、近年和歌山市立博物館に寄託された。既知の林文書Ａと併せて調査・撮影を行った。  
また、末永雅雄コレクションは、考古学者であった故末永雅雄氏の収集したもので、和歌山関係の文書を多く含む。この中には、『和歌山県史』に収められているものの、所在不明だったものもあり、今後の和歌山中世史研究における活用が望まれる。